SURFING

Asian Games 2026

-18歳の少女が初代女王に -



Ikeda Mirai

池田 美来

第20回アジア大会で優勝

提供：アフロ

9月29日、御前崎から世界に羽ばたく金メダリストが誕生した。

9月25日から29日にかけて愛知県田原市で開催された「第20回アジア競技大会」。本大会から正式競技となったサーフィン競技で本市出身の池田美来選手が金メダルを獲得し、ロサンゼルス2028オリンピックの出場権を条件付きで獲得した。

5歳から地元・御前崎の海で波に乗り、良い波を見極める力と技術を磨いてきた池田選手。数々の挑戦を重ね、世界を舞台に活躍する選手へと成長した。

アジア大会への出場が決定した後も準備に余念はなかった。開催地の田原市まで足を運び、さまざまなコンディションの海に入り、波に慣れるための練習を重ねたという。

迎えた大会当日、これまで培ってきた力を発揮し、順調に勝ち進んだ池田選手。準決勝の序盤では、ジャスミン・スチューダー選手（インドネシア）にリードを許す展開となったが、残り時間3分で6・33点を叩き出し、大逆転。決勝へ勝ち上がった。

共にアジア大会の女子日本代表として出場し、ライバルと意識していた野中美波選手が準決勝で敗退。海から上がってくる姿を見て、「自国開催で金メダルを外国人選手にとられてたまるか、絶対に負けない」という思いがこみ上げたという。

決勝戦の相手は、パリ2024オリンピックに出場した楊思琪（ヤンスーチー）選手（中国）。それまでの試合のライディングを観察し、高得点を出す姿に焦りを感じていたという。それを鼓舞してくれたのは、御前崎からの声援だけでなく、田原市まで駆けつけてくれた地元応援団の声だった。そして及川伸幸コーチの「絶対に大丈夫」という言葉だった。その言葉を胸に決勝に臨んだ。相手に有利な波をつかませないよう、近くでプレッシャーをかけながら自らも波を見極めて見事なライディングを披露した。最後まで本気で戦い抜き、合計11・64点を獲得。見事優勝を果たし、目標に掲げてきた金メダルをつかみ取った。

「優勝が決まった瞬間はホッとした。海から上がったとき、みんなが笑顔だったのが本当にうれしかった。改めて、多くの人から応援されていることを実感できた」と大会を振り返った。

次の目標はオリンピックに出場し、チャンピオンになること。条件付きの出場権獲得を足掛かりに、さらなる高みを目指す。

今後は、ジャンプ技も挑戦しながら大会や練習に励んでいくという。池田選手は、「自分の可能性にワクワクしている」と笑顔で語る。世界へと挑み続ける彼女の活躍に目が離せない。